



F4
JAPANESE
CHAMPIONSHIP
CERTIFIED BY FIA

シリーズ
参戦報告書

シーズンの軌跡



FUJI SPEEDWAY

- ・第1戦 優勝
- ・第2戦 DNF(22位)



TWINRING MOTEGI

- ・第5戦 5位
- ・第6戦 2位
- ・第7戦 7位



SUZUKA CIRCUIT

- ・第3戦 優勝
- ・第4戦 5位
(トップチェックカー)

シーズンの軌跡



SPORTLAND SUGO

- ・第8戦 2位
- ・第9戦 優勝
- ・第10戦 26位



TWINRING MOTEGI

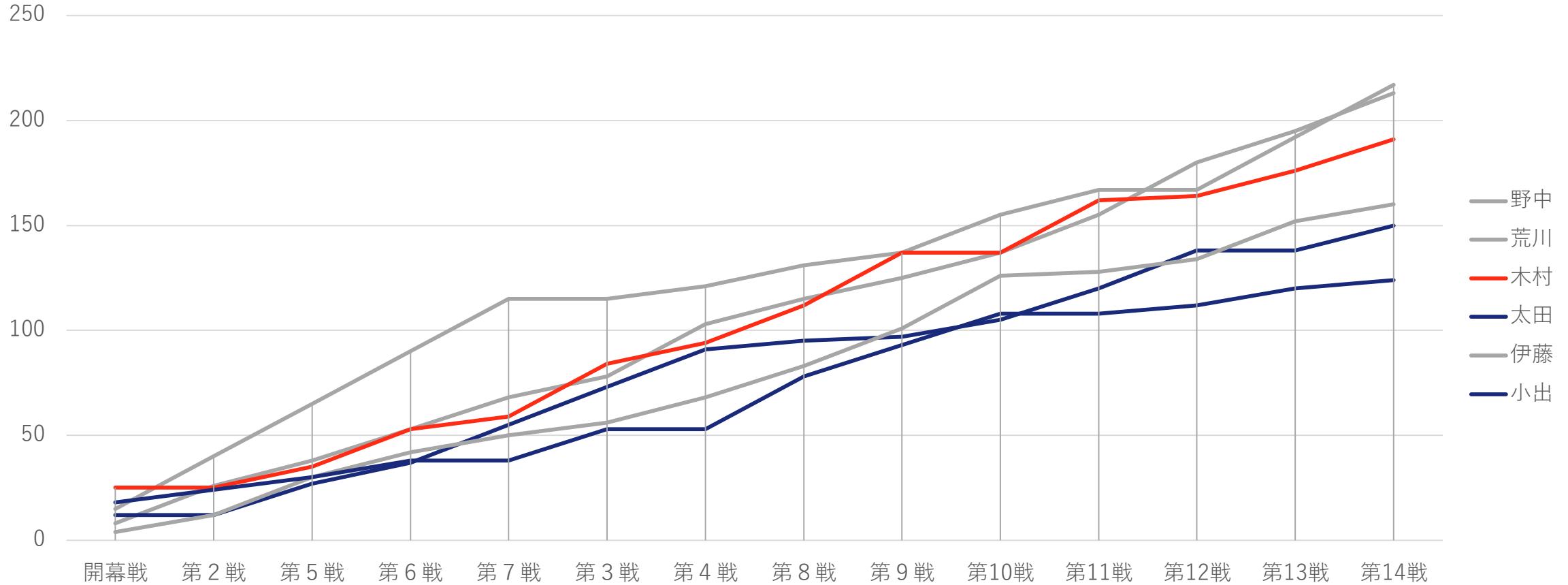
- ・第11戦 優勝
- ・第12戦 9位



FUJI SPEEDWAY

- ・第13戦 4位
- ・第14戦 3位

シーズンの軌跡 Point Ranking



シリーズランキング3位 HDFP ランキングトップ

~ Mini Reports ~



開幕前

ホンダチームとしてF4に乗るのが1年振りの状況から迎えたシェイクダウン。昨年はコロナにより、レースに参戦出来ない状態であったので他のF4オーナーさんにマシンを貸して頂いて練習をしたり、シミュレーターでトレーニングをしたり、自分のレース勘を無くさないように準備を進めて参りました。しかし、ホンダの独特なマシンセットに自分のドライビングを合わせ込めきれず、開幕までのテストではタイムが伸びず苦しい状態が続きました。

~ Mini Reports ~



開幕ラウンド「富士」

そんな開幕前の不安を抱えながら迎えた富士。自分なりに考えた走り方とマシンセットがピッタリ収まり、レースウィーク中、終始安定して速さを見せ、開幕戦優勝することが出来ました。しかし、第2戦ではマシントラブルと自分のミスによりポジションを大きく落とし、ノーポイント。反省点も多く見られたレースでした。しかし、周囲を圧倒するレース運びは関係者から大きく評価され次戦におおきな期待が持たれる形となりました。



~ Mini Reports ~

第2大会 真夏の「もてぎ」

開幕戦の勢いをそのまま鈴鹿大会へと挑みたかったですが、新型コロナウィルスにより鈴鹿大会が延期、第三戦のツインリンクもてぎ大会がスライドされ第2大会という形になりました。真夏のもてぎは今までのF4のレースウィークではなく、イレギュラーである中、緊急事態宣言下でテストも出来ず、圧倒的なデータと練習不足で厳しいレースとなりました。しかし、持ち帰るべきポイントはしっかりと持ち帰りシリーズに向けて駒を進めることができました。



~ Mini Reports ~



大本命 ホームコース「鈴鹿」

ライバル勢に惨敗した苦しいもてぎから気持ちを切り替え挑んだ鈴鹿大会。テストから好調でレースウィークを自分の流れにすることが出来ました。自身初となる2戦連続トップチェッカーを果たし速さのアピールと共に大きな自信に繋がりました。トップと約60ポイント差もあったシリーズポイントも27ポイント差まで大きく詰め、後半戦、菅生の3連戦と茂木大会、富士大会と大きな期待が寄せられました。

~ Mini Reports ~

遂に捉えたポイントランキングトップの姿「SUGO」

第2戦から悪くなってしまった流れもようやく鈴鹿で取り戻し迎えたSUGO大会。自身物凄く好きなサーキットであり事前テストから好調なペースでレースウィークに入りましたが、タイヤのロッドが変わったことにより形成逆転、木曜・金曜での公式テストでは下位に沈んでしまいました。しかし、タイヤとマシンの理解、ドライビング改善に集中し諦めずに取り組み続けた結果、ポールポジションは獲得出来ませんでしたが、2位と優勝をマークしランキングトップと同ポイントまで迫る展開となりました。翌日のレースでは差を更に広げたかったもののスタート時のクラッチミートでわずかに車が動き、フライングと判定されてしまい26位フィニッシュとなりました。



~ Mini Reports ~



走りで魅せた強さ「もてぎ」

菅生大会でのフライングにより幻となってしまった2連勝。リザルトも26位でトップにようやく追いついたポイントランキングも2位に降格。なにも巻き返すことが出来ない非常に痛いミスからこのもてぎ大会まで気持ちを切り替えるのにかなり時間が掛かりました。そんな中で挑んだモテギ大会木曜日、金曜日の練習は総合トップ万全の体制で予選に合わせ込みました。予選ではアタックのタイミングとマシンセットが合わず2位スタートと、4位スタート。納得いく順位ではありませんが、優勝が狙えるポジションでしたので強気の姿勢でレースに挑みました。レース1は序盤トップに独走を許しましたが、SCを上手く利用して逆転優勝。レース2は、4番手から抜群のスタートで2台をオーバーテイク。トップに一気に躍り出る場面で相手の判断ミスにより接触。最後尾から9位とポイント圏内まで20台以上もオーバーテイクして貴重な2ポイントを獲得しました。トップとポイント差を縮めることができず悔しいレースとなりましたが、最終戦まだチャンスはありますし、圧倒的なスピードは見せたので良いイメージを持って最終戦に挑みたいと思います。

~ Mini Reports ~

涙のランキング3位「最終大会 富士」

もてぎ大会の勢いをそのまま富士大会へ。公式練習からフルアタックで走行し、まずは予選で有利な順位でレースを運ぶことが出来るように誰よりも速さを意識して練習を行いました。しかし、予選ではマシンバランスが予想外に変化しライバルから一歩後退。レースペースでも挽回することが出来切れず両レース共にライバルに敗北、夢に見ていた、届きかけたシリーズチャンピオンが手からこぼれ落ちる瞬間を身体の底から体感しました。今回のレースでは事前準備からチームと一致団結して全てやり切ったレースでした。この結果に対しての取り組みに悔いは無いですが、純粋に相手が速かった。自分にはなにも出来なかったことが非常に悔しく、チームや応援して下さった皆様の顔が脳裏に浮かび涙が止まらないレース後のパークフェルメでした。



~ Mini Reports ~



雨降る鈴鹿にてのネクストステップ「SFLルーキーテスト」

2021年最後の活動はスーパーフォーミュラライツ(SFL, F3と同等カテゴリー)のルーキーテストに参加させて頂きました。

初めてのチーム、はじめてのマシンであるにも関わらず天気は生憎の雨。2時間×3本のセッションがあり、徐々にマシンとコースとコンディションの変化にステップバイステップで順応。

悩みながらどうしたらいいものか、答えもはっきりと出ないままおわった初走行でしたが総合2位でテストを終えました。

来季の活動にも関わる重要なテストであったので課題はまだ沢山ありますが良い形でテストを終えることが出来て、ほっと一安心した気持ちでした。



まとめ & 2022シーズンの抱負



今シーズン、自分のキャリアの中で初めて「メーカー系のトップチーム」からのレース参戦であり、自分がなぜそのチームにいるのか、どのようなことを求められ、どのように振る舞う必要があるのか、結果と実績、取り組み方など走り方をどうする以外のあらゆる部分で未体験ゾーンな1年であり、シーズン開幕前から終了後まで終始チャレンジの連続で振り返ることも無く駆け抜け続けた。そんなシーズンだったと思います。

チャンピオン獲得は惜しくも逃してしまいましたが、シーズン最多ポールポジションを獲得。3回のマシンシャッフルがありましたが、どのコースどのマシンでも速さを見せることが出来、速さで圧倒した1年がありました。今後どのようにチームと関わるといいマシンができ、いい関係を築けるのか沢山の成長と学びがありました。しかし、常に感じる結果への期待値になんとしてでも応えたく、時には自分のコントロール範囲を超えて失敗を犯してしまったり、逆に超初心者のような凡ミスを犯してしまったりと、シーズンを通してあらゆる状況下でも自分自身をマネジメントする強さという部分では課題が残っており、来季に向けての宿題となりました。

シリーズを通した強さと、純粹な速さは違うとF1ドライバーがよく言っていますが、本当にその通りだなど改めて感じました。来季の準備は進んでおり、昨年末から参戦体制は決定しております。ステップアップに向けた肉体改造もはじめており、3日から毎日ランニングやトレーニング等を行い、心肺機能の強化と基礎体力の向上に励んでおります。

皆様2021シーズン、最後まで全身全霊で応援して頂き本当にありがとうございました。まだまだ止まりません。進み続けます。

皆様と一緒に夢の実現へ駆け抜ける喜びを第五感で体感ではなく「第六感」で激感して頂けるように頑張って参ります！引き続き応援よろしくお願ひいたします。

2022シーズン ホンダモータースポーツ 参戦体制発表会
2022年1月14日(金曜日) 18時~

